

太田 博史 教授 略歴

学歴

1968年 3月	兵庫県立尼崎北高等学校卒業
同 4月	神戸商科大学商経学部管理科学科入学
1972年 3月	同上 卒業
同 4月	神戸商科大学大学院修士課程経済学研究科入学
1974年 3月	同上 修了
同 4月	神戸商科大学大学院博士課程経済学研究科入学
同 6月	同上 退学
同 7月	ニュー・サウス・ウェールズ大学大学院博士課程経済学研究科入学
1978年 10月	同上 修了 Ph. D (in Economics)

職歴

1978年 4月	神戸商科大学附置経済研究所助手
1983年 10月	神戸商科大学商経学部国際商学科助教授
1993年 4月	同上 教授
1999年 4月	神戸大学大学院国際協力研究科教授
2003年 10月	神戸大学経済経営研究所教授（兼ねて神戸大学大学院国際協力研究科教授）
2005年 4月	神戸大学大学院国際協力研究科教授
2007年 2月	神戸大学理事・副学長
2009年 4月	神戸大学大学院国際協力研究科教授
2015年 3月	神戸大学定年退職
2015年 4月	神戸大学名誉教授

1983年 6月～ 9月	ニュー・サウス・ウェールズ大学（豪州）客員研究員
1987年 9月～ 12月	デ・ラサール大学（フィリピン）客員教授
1991年 10月～ 12月	暨南大学（中国）交換教授
1994年 7月～ 1995年 7月	エセックス大学（英国）客員教授

役職

1996年 4月～ 1997年 3月	神戸商科大学商経学部国際商学科長
--------------------	------------------

- 2000年 4月～2001年 9月 神戸大学大学院国際協力研究科教務委員長
- 2001年 10月～2003年 9月 同上 国際開発政策専攻長
- 2004年 1月～2005年 12月 同上 戦略担当研究科長補佐
- 2005年 4月～2006年 3月 (財)阪神・淡路大震災記念協会「21世紀文明研究委員会」第4部会
委員
- 2006年 1月～2007年 2月 神戸大学大学院国際協力研究科長
- 2009年 4月～2011年 3月 兵庫国際サマースクール（アジア若者塾）カリキュラム委員長

太田 博史 教授 主要業績目録

著書

『地域・都市・交通分析のためのミクロ経済学』東洋経済新報社、2002年12月（単著）

共編著

1. *Trade, Policy and International Adjustments*, Academic Press, 1991
2. 『国際調整の経済学』実教出版、1992. 2

分担執筆

高橋基樹、福井清一（編）『経済開発論』第8章「環境と貿易」勁草書房 pp. 161-177、2008. 4（共著）

論文

1. 「競争均衡とコアの理論」修士論文、神戸商科大学、1974（単著）
2. 「集合論的均衡モデルとコア」『星陵台論集』神戸商科大学、1974（単著）
3. “Some Aspects of the Theory of International Trade under Uncertainty,” Ph. D dissertation, University of New South Wales, 1978. 10（単著）
4. “On the Ranking of the Price and Quantity Controls under Uncertainty,” *Journal of International Economics* 8, pp. 543-550, 1978（単著）
5. “The Optimal Level of Exports under Threat of Foreign Import Restriction,” *Canadian Journal of Economics* 11, pp. 720-725, 1978（共著）
6. “Some Implications of Uncertainty in a Small Open Economy,” *Economic Record* 55, pp. 354-358, 1979（共著）.
7. 「国際貿易と不確実性」『創立50周年記念論文集』神戸商科大学、pp. 487-498、1979（単著）
8. 「価格不確実性下の貿易と最適成長」『商大論集』31-2、神戸商科大学、pp. 85-94、1979（単著）
9. 「住民意識構造の解析」『研究年報』15、神戸商科大学経済研究所、pp. 41-61、1981. 3（共著）
10. 「政治－経済モデル」『研究年報』16、神戸商科大学経済研究所、pp. 53-60、1982. 3（単著）
11. 「失業率および物価上昇率の最適水準」『商大論集』34-2、神戸商科大学、pp. 106-114、1982. 10（単著）
12. 「政治的景気循環とフィリップス曲線」『研究年報』17、神戸商科大学経済研究所、pp. 29-47、1983. 3（単著）
13. 「不確実なインフレ期待下の最適失業と賃金上昇率」『商大論集』35-1、神戸商科大学、pp. 87-

- 96、1983. 7 (単著)
14. 「東南アジアの工業化と日本の中小企業」小島 清編『太平洋協力と日豪の関心』第7章、日豪調査委員会、pp. 176-200、1983. 10 (共著)
 15. “The Equivalence of Three Controls under Demand Uncertainty,” *Shodai Ronshu* 37-4, Kobe University of Commerce, pp. 105-114, 1985. 7 (単著)
 16. 「参入阻止価格の動学分析」『商大論集』38-3/4、神戸商科大学、pp. 198-212、1988. 1 (単著)
 17. 「不確実性下の関税と輸入割当－貨幣を含むモデルによる分析－」『商大論集』40-1、神戸商科大学、pp. 103-116、1988. 9 (単著)
 18. “On the Optimal Thresholds and Targets for Money Holding under Uncertainty,” *Annals of the School of Business Administration*, No. 33, Kobe University, pp. 15-22, 1989 (共著)
 19. 「外国人不法就労と経済厚生」『経済経営研究所年報』40(Ⅱ)、神戸大学、pp. 141-159、1990 (単著)
 20. “The Equivalence of Tariffs and Quotas under Flexible Exchange Rates in a Monetary Model,” A. Takayama et.al. ed., *Trade, Policy, and International Adjustments*, Academic Press Inc., pp. 222-243, 1991. 2 (単著)
 21. “The Friedman-Savage Hypothesis and the Downward Sloping Liquidity Preference Schedule,” *Annals of the School of Business Administration*, No. 35, Kobe University, pp. 49-64, 1991 (共著).
 22. 「外国人不法就労と失業および資本移動」『商大論集』42-4/5 (上河泰男教授退任記念号)、神戸商科大学、pp. 193-207、1991. 2 (単著)
 23. “A Note on Futures Markets with Small Price and Production Risks,” *International Economic Review* 33-2, pp. 479-486, 1992. 5 (共著)
 24. 「多国籍企業の移転価格と最適政策」『商大論集』44-3、神戸商科大学、pp. 29-45、1992. 10 (単著)
 25. “Imperfect Competition and the Existence of the General Equilibrium Solution under Intraindustry Trade,” H. Herberg and N. V. Long ed., *Trade, Welfare, and Economic Policies*, University of Michigan Press, pp. 255-265, 1993 (共著)
 26. 「利潤分配制度下の外国人労働と国民厚生」『商大論集』45-3、神戸商科大学、pp. 203-217、1993. 12 (単著)
 27. “Intra-Industry Trade and Transportation Industry,” *Nagasaki Kenritsu Daigaku Ronshu* 28-1, In Memory of Professor Yasuo Uekawa, Nagasaki Prefectural University, pp. 105-132, 1994. 10 (単著)
 28. 「過当競争の理論分析－過剰参入定理と生産補助金政策の考察－」『商大論集』46-4 (風巻義孝

- 教授退任記念号)、神戸商科大学、pp. 47-64、1995. 1 (共著)
29. 「国際生産・輸送体系変化の分析と政策－港湾の変化が及ぼす影響に関する考察－」『応用地域学研究』創刊号、pp. 1-11、1995. 12 (共著)
 30. “Hartwick’s Rule in Small Open Economies under Uncertainty,” Nguyen, D-T. ed., *Queensland, Australia and the Asia-Pacific Economy*, The Econometric Society of Australia (Queensland) Inc., pp. 513-522, 1996. 7 (共著)
 31. 「消費の持続可能性について」『国民経済雑誌』177-3、神戸大学、pp. 51-59、1998. 3 (共著)
 32. “Sustainability in Small Open Economies under Uncertainty,” *Annals of Operations Research* 88, pp. 173-182, 1999 (共著)
 33. “Ranking of Price and Quantity Controls: An Open Economy Case under Uncertainty,” Volume M: *Management, Global and Educational Issues*, ed. by M. Deisler et al., *Computational Economics I*, Pergamon, pp. 15-20, 1999 (共著)
 34. 「再生可能資源経済の持続性」『国民経済雑誌』181-3、神戸大学、pp. 25-34、2000. 3 (共著)
 35. “A Theoretical Analysis of Liner Shipping Conferences and Strategic Alliances,” *Review of Urban and Development Studies* 12-3, pp. 228-249, November 2000 (共著)
 36. “Imperfect Substitutes and Strategic Trade Policies under Cournot Duopoly: Mathematical Note,” *Kobe Economic and Business Review* Vol. 45, pp. 1-13, 2001. 2 (共著)
 37. “Consumption Sustainability in Resource Economies under Price Uncertainty,” *Journal of International Cooperation Studies* 8-3, pp. 67-81, 2001 (共著)
 38. 「不法移民の経済学」『国際経済理論の地平』東洋経済新報社、pp. 75-92、2001. 4 (共著)
 39. 「再生可能資源の持続可能性：効用最大化と利潤最大化」『国民経済雑誌』184-5、神戸大学、pp. 17-29、2001. 11 (共著)
 40. 「戦略的貿易政策：課題と成果」『国民経済雑誌』184-6、神戸大学、pp. 33-41、2001. 12 (共著)
 41. “Imperfect Substitutes and Strategic Trade Policies under Cournot Duopoly,” A. D. Woodland ed., *Economic Theory and International Trade: Essays in Honour of Murray C. Kemp*, Edward Elgar, pp. 192-207, 2001. 6 (共著)
 42. 「再生可能資源と資本蓄積および持続可能性」『国民経済雑誌』188-5, pp. 15-27, 2003. 11 (共著)
 43. 「資源ストックおよび技術不確実性下の再生可能資源と資本蓄積」『商大論集』55-5、管理科学科創立40周年記念号、pp. 163-180、2004. 3 (単著)
 44. “Renewable Resource and Capital Accumulation under Uncertainty,” *Review of Urban and Regional Development Studies* 17-1, pp. 18-34, 2005. 3 (単著)
 45. “Common Property Resource and Private Capital Accumulation with Random Jump”, R. F.

- Hartl and C. Deissenberg ed., *Optimal Control and Dynamic Games: Applications in Finance, Management Science and Economics*, Springer-Verlag, pp. 74-84, 2005. 6 (共著)
46. 「資源経済の持続可能性とその確率について」『国民経済雑誌』195巻4号、pp. 29-37、2007. 4 (共著)
47. “Efficiency in International Trade with Firm Heterogeneity and Networks,” *Review of Development Economics* 11-2, pp. 217-231, 2007. 5 (共著)
48. “Sustainability or Ruin of a Common Resource Economy with Random Jumps,” *Review of Development Economics* 11-2, pp. 390-403, 2007. 5 (共著)
49. 「共有資源および社会資本と最適消費経路」『国民経済雑誌』203巻6号、pp. 1-12、2011. 6 (共著)
50. “Status-Seeking and Exhaustible Resource under Uncertainty,” *International Journal of Development and Conflict* 1-3, pp. 399-417, 2011 (共著)
51. 「国際合弁事業におけるナッシュ交渉と最適課税政策」『国民経済雑誌』207巻3号、pp. 1-14、2013. 3 (単著)
52. “Carbon Taxes and Comparison of Trading Regimes in Fossil Fuels,” E. Moser, W. Semmler, G. Tragler and V. M. Veliov (ed.), *Dynamic Optimization in Environmental Economics*, Springer-Verlag, pp. 287-314, 2014 (共著)
53. 「排出量規制と最適生産量の動学分析」『国民経済雑誌』211巻2号、pp. 1-15、2015. 2 (単著)

翻訳

1. M. C. ケンプ著『国際貿易と投資の純粋理論』日本評論社、1981. 9 (共訳)
2. W. J. イーシア著『現代国際経済学』国際マクロ、多賀出版、1992. 3 (共訳)
3. W. J. イーシア著『現代国際経済学』国際貿易、多賀出版、1992. 10 (共訳)
4. カー・ユー・ウォン著『現代国際貿易論』多賀出版、1999 (共訳)

書評

1. 近藤健児、多和田眞、松葉敬文『労働者管理企業と労働移動の経済学』中京大学附属経済研究所、v+p. 107、2002年、『地域学研究』日本地域学会、Vol. 33、2003. 3
2. 市村眞一監修・土井正幸編著『港湾と地域の経済学』多賀出版、xxi+p. 429、2003年、「理論と実証に基づく最新鋭の分析」『経済セミナー』No. 590、p. 107、2004. 3
3. 安藤洋美『社会人と大学生のための数学精義』現代数学社、2005年、『理系への数学』2005年11月号

その他

1. 「不確実性下の国際貿易理論」『経済セミナー』No. 326、日本評論社、pp. 34-39、1982. 3
2. 「人口減少の要因」調査報告、尼崎市、1982. 3
3. 「アメニティーの経済分析」調査報告、尼崎市、1983. 3
4. 「上河泰男教授の人と学問」『商大論集』42-4/5（上河泰男教授退任記念号）、神戸商科大学、pp. 209-223、1991. 2
5. 「中日美汽車工業組織結構及其比較」『亜太経済』No. 43、福建社会科学院亜太経済研究所、pp. 52-56、1992. 2（共著）
6. 「国際経済自由化進展に伴う交通市場における介入・競争の一般均衡分析と政策提言」文部省科学研究費補助金研究成果報告書、1998. 3
7. 「通貨危機モデル」平成12年度学術フロンティア・プロジェクト「国際金融革命と法」国際資本移動・電子商取引研究班研究成果報告書、文部科学省・私立大学学術フロンティア推進拠点、関西大学法学研究所、2001. 3
8. 「資源経済の持続可能性を保障する最適投資ルールと効率性および公平性」文部科学省平成12年度～平成13年度科学研究費補助金（基盤研究（c）（2））研究成果報告書（研究代表者：太田博史）、2002. 3
9. 「通貨危機の原因と教訓」平成13年度学術フロンティア・プロジェクト「国際金融革命と法」国際資本移動・電子商取引研究班研究成果報告書、文部科学省・私立大学学術フロンティア推進拠点、関西大学法学研究所、2002. 3
10. 「開発ミクロ経済学」『経済学研究のために』第8版、神戸大学経済経営学会、pp. 324-329、2002. 4
11. 「資本移動が都市インフォーマル・セクターにおよぼす影響について」平成14年度学術フロンティア・プロジェクト「国際金融革命と法」国際資本移動・電子商取引研究班研究成果報告書、文部科学省・私立大学学術フロンティア推進拠点、関西大学法学研究所、pp. 21-26、2003. 3
12. 「資本移動と国際課税」平成15年度学術フロンティア・プロジェクト「国際金融と法」国際資本移動・電子商取引研究班研究成果報告書、文部科学省・私立大学学術フロンティア推進拠点、関西大学法学研究所、pp. 15-18、2004. 3
13. 「人材育成による国際貢献～ラオスおよびイエメンにおける開発援助～」 「21世紀文明の創造」調査研究事業 第4部会研究報告書 21世紀文明研究委員会、(財)阪神・淡路大震災記念協会、pp. 77-106、2005. 12
14. 「南北貿易における資源環境政策と動学的貿易利益の研究」文部科学省平成16年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書（研究代表者：太田博史）、2007. 5

15. 「企業規模と企業数の変動法則について」文部科学省平成19年度～平成21年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書（研究代表者：金子由芳）pp. 38-54、2010. 6

その他の活動

1. コーディネーター：兵庫県海外・東京事務所長会議「国際経済交流における海外事務所の役割－外資系企業誘致に向けて－」ひょうご国際プラザ 交流ホール、2000. 10. 3
2. コースリーダー：JICA 平成14年度第7回国別特設海外貿易振興政策（東欧）研修コース、2001. 2. 4～3. 2
3. 提案策定者：「人間の安全保障に関する兵庫アクションプログラム」汎太平洋フォーラム創立20周年記念事業、国際シンポジウム「人間の安全保障の世紀」社会開発分科会
4. 業務主任：JICA ラオス国立大学経済経営学部支援プロジェクト、2004. 12. 20～2006. 9. 20
5. 講師：ラオス政府職員に対する公共政策トレーニングプログラム、2009. 4. 2, 4. 21～8. 11, 12
6. 遠隔講義：“Current Issues in ASEAN Integration,” (GSICS to Lao Japan Institute), 2010. 6. 4
(2015年2月28日現在)